

# 鳥取大学

令和5年度入学者選抜試験問題（後期日程）

（地域学部地域学科人間形成コース）

「総合問題」出題意図

## 問題Ⅰ

問題文は、中西新太郎著『人が人のなかで生きてゆくこと—社会をひらく「ケア」の視点から』（はるか書房、2015年）からの抜粋である。問題文のなかで筆者は、ケアや教育の限界をその専門家たちが自覚することの必要性について、論じている。その内容は、地域教育学と関わり、地域を土台とした教育を創り出すための留意点としても捉えられ、その意味で受験者が人間形成コースで学ぶことの主体性・協働性や大学での学習に必要な知識・技能にも関わる内容である。

問1は、いかに周到な支援者でも、支えようとする誰かが人生でぶつかるかもしれない危険や困難をあらかじめ全て取り除いておくことはできないにもかかわらず、親が子を思うあまり、それを達成しようと子の生活を隅々まで完全に自分の思いどおりにしようとする。このことについて、問題文のなかで筆者が論じるケアするかかわり方が持つ課題を理解する文章の読解力や、書かれている内容を整理して論述する理論的表現力を問う問題である。

問2は、支援する行為は、「相手の人生に踏み込んで何でもできるわけではない」という自覚の上に成り立つものであり、その「思いどおりにならなさ」を踏みこえていくことは、結果的にケアされる側を萎縮させたり、卑小で無能な存在にケアされる側を置いてしまう。筆者が指摘するこうした「ケアの限界」を正しく理解する文章の読解力と共に、筆者の指摘をもとに教育という営みを捉え直し、「品質保証」のできる「教育」を批判していく思考力・判断力、それを適切に説明する表現力を問う問題である。

## 問題Ⅱ

表データを見ながら項目ごとに示された主要な特徴を見出し、それらをまとめながら因果律を推察させる問題。

問1 自然観察場面と統制場面での特徴的な反応に着目し、その特徴を生活年齢ごとに自他認知の相違としてまとめる力を問う。また、自然観察場面の下位区分として自分の名前への反応と友だちの名前への反応の仕方に関するズレに着目し分析できる力を問う。加えて、自分の名前を認識することと自分の名前を言うことの発生時期に注目し、発達の仮説を導き出す力を問う。

問2 問1で求められた力を前提に自己意識の形成プロセスに依拠しながら子どもの発達支援として妥当な教育的働きかけについて独自の提案力を問う。